

くにせんたくむけいぶんかざい

国選択無形文化財に指定されている程村紙（烏山和紙）

7月の那須烏山市と言えば、烏山の山あげ行事ですね！烏山の山あげ行事は、くにしていじゆうようむけいぶんぞくぶんかざい国指定重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産に登録されている、約460年の歴史をもった文化財です。今年は7月22日(金)～7月24日(日)の3日間開催されます。

今月号は烏山の山あげ行事が実施されることにちなんで、山の貼り紙にも使われている烏山和紙についてご紹介します。

○烏山で作られる和紙とはどんなもの？

現在那須烏山市で作られている和紙は「ほどやうがみ程村紙」という名称です。この名称は、那須烏山市境地区の「程村」という地名に由来しています。かつては那須烏山市の各地で和紙が作られていましたが、明治末期に高知県からながし流し漉きの技法が導入され、昭和期には生産能率や価格の点から程村紙を漉く家はほとんどなくなりました。

明治・大正期には一時、国政選挙の投票用紙に指定されるなど、現在も特注品の紙として美しい仕上がりを求められるものに使われています。

今では、和紙の製造をしているのは「和紙の里」の1工場のみとなりました



○なぜ烏山で和紙が作られるようになったのか？

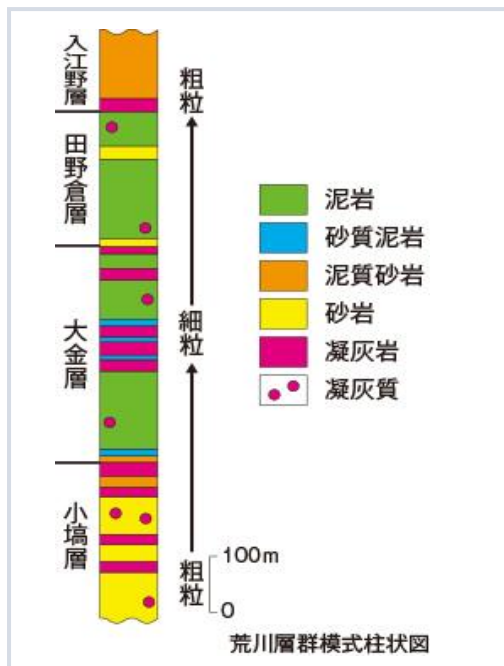
上記のように、烏山の和紙には長い歴史がありますが、ではどのようにして那須烏山市で和紙が作られるようになったのでしょうか？そこには那須烏山市の自然が関わっています。この地域の自然環境は和紙の原料となる「こうぞ楮」が育ちやすく、また清らかな水が豊富であったことから、はじめは農家の副業として、和紙が作られるようになりました。

○ジオパーク構想と「烏山の山あげ行事」

ジオパークと関わりのある烏山和紙が使われている「烏山の山あげ行事」も、那須烏山地域のジオサイトの一つとなっています。和紙と同じように烏山の山あげ行事にも文化財としての長い歴史があり、烏山城主 なすすけ那須資胤が牛頭天王を八雲神社に祀った際の奉納余興として行われたことが始まりであると言われています。

今年の山あげ祭は有観客開催となるほか、YouTube「なすからチャンネル」での動画配信も予定されています。なかなか現地に行けない！という方も、ぜひ配信でお楽しみください♪





正解:A…3.入江野

B…1.田野倉

C…2.大金

D…5.小埜

荒川層群は今から約900万年～1500万年前の時代の地層と言われています。

この荒川層群からオオガネクジラをはじめ、イルカや貝など、海の生き物の化石が見つかることから、那須烏山地域がかつて海であったことがわかっています。

ジオパーク構想関連事業開催情報

《予告》化石発掘隊③ 参加者募集

8月20日(土)に実施される、「化石発掘隊③」の参加者募集が、8月1日(月)から始まります。募集のお知らせは8月1日号のお知らせ版や、ホームページに掲載されます。ぜひご参加ください。

○申込期間 8月1日(月)から8月15日(月)まで 受付時間は平日の8:30～17:00

○申込方法 電話などで那須烏山市生涯学習課文化財グループあて申し込む

編集後記

今月は山あげ祭の開催月ということで、和紙と烏山の山あげ行事について紹介しました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で無観客開催となってしまいましたが、今年度は有観客開催ということですので、お越しいただける方は、ぜひ現地での熱気を感じ、楽しんでいただければと思います。

さて、話は変わりますが、先日文化財グループの Instagram アカウントのフォロワー数が600人となりました！投稿を見てくださっている皆さん、ありがとうございます。これからもたくさんの投稿をしていきたいと思っていますので、楽しみにしていただければと思います。

HP、Instagramにて
情報更新中！



ジオパーク構想 HP



文化財グループ Instagram